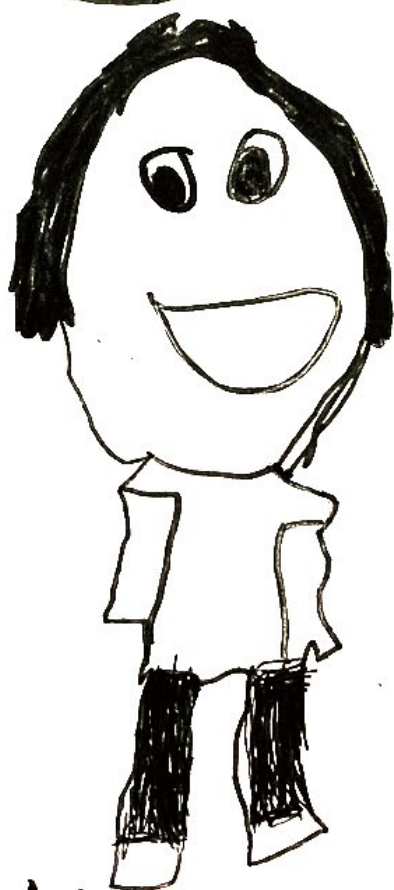
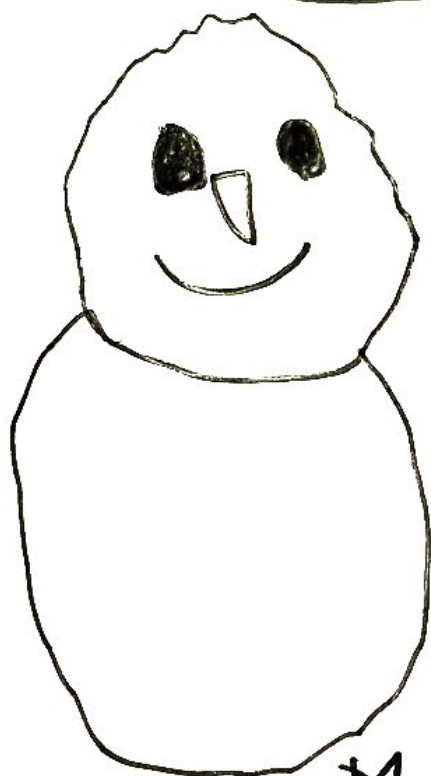


とよ・たち美肌通信

3月号 Vol. 152



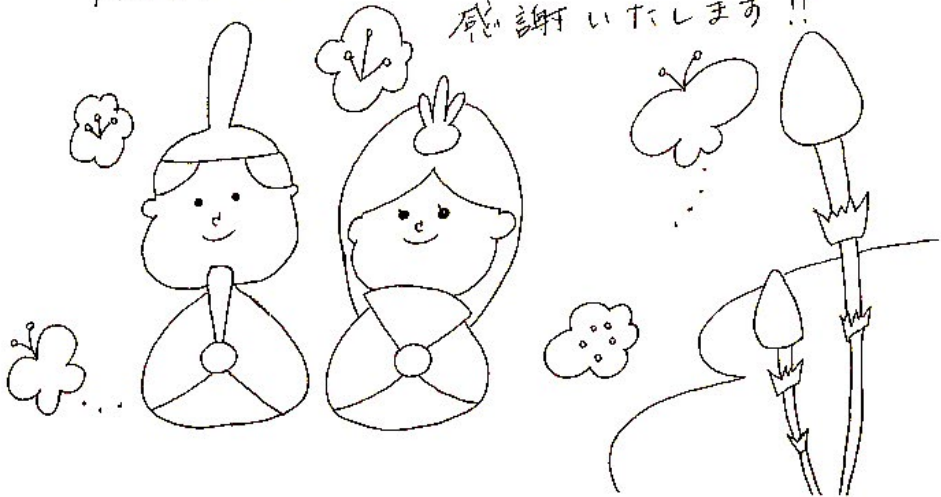
☆
☆あつし☆
☆

3月

今月号のとよたち美肌通信の表紙は、
大きな大きな雪だるまと、今月号の表紙を描いて
くれた男の子の絵です。今年の冬は雪が降った
日もありませんね。楽しく雪あそびができたかな？
ゲームをする事が好きで、
スイミングやてつぼうなど、運動が得意な
男の子が描いてくれました！
ありがとうごさいます😊

院長はじめ スタッフ一同、じょり

感謝いたします!!



命は吾^{われ}より作^なすとは 以前読んだ書籍の言葉である。運命とは自分がつくるということ。自ら困難に渾身満力で対峙してきた人物は皆命を吾より作してきたであろう。松下幸之助氏はその最たる存在であつたに違いない。松下氏曰く、「人間9割は自分ではどうにもならない運命のもとに生きている。しかしその運命を呪つてはいけな。喜んで受け入れる。すると運が良くなる」と言っている。

一般的に運命には歓迎できる運と歓迎できず可能であれば拒否したい運がある。人間が浅はかで無カたつと後者はいわゆる宿命になり一方、人間が本当に磨かれてくると運命(前)になる。即ち自分で自らの命^{めい}を創造することが出来るように存る、と安岡正篤氏(哲学・思想家)は言っている。

ではどうすれば「人間を磨き 自分の命を創造出来るのだろうか。その答えは先ず、

カ1に素直であること。昨今は個性を重視するとよく言われるが、「性」の偏である「ト」は心が天地に対してすくと立っていることを表現している。心が歪んだりすると個性も発揮されず、そればかりが個性ではなく我がままなだけになる。すると人生も歪む。

カ2に、生まれながらにして持っている能力を全て発揮し尽くすこと。

カ3には 人生に起きる予期せぬ不幸な事象に対して ハナハナと存てはいけない。「よしきた」とそれに応じる。その姿勢こそ運命を切り開く根幹となる。そう心したい。 隈刀川, 拝